

さくら初! 3社合同安全大会を開催

2024年3月、さくらグループにおいて初となる、安全大会が開催されました。今回は当日の様子を高橋社長に振り返っていただきます。



代表取締役
たかはし かずよし
高橋 和義 さん

■ 概要

2024年3月29日 14:00～
ホテルキャッスルプラザ多賀城にて、
さくらグループ3社合同で開催。

参加者は3グループの社員と協力会社の皆さん、総勢70名ほどが集まりました。プログラムとしては、まずは開会挨拶から始まり、続いて連絡事項とヒアリハット報告が行われました。そして、安全動画の視聴の後、無災害達成に向けて災害例の報告が行われ、締めには社長の私からの挨拶という流れでした。最後に安全唱和を行って閉会。その後、懇親会も実施しました。

|| 安全大会の意義

全員で安全への意識を再認識することと、3社の顔合わせ

どうしても大怪我や死亡事故につながってしまう可能性が、ほかの職種よりも高いのが我々の仕事です。安全大会では、皆さんに怪我をせず、安全に仕事をしていただくことの大切さを改めて認識していただくことが第一の目的です。今回はそれに加えて、初のグループ合同開催ということで、3社の顔合わせの場を持つ、という意味もありました。

|| 初の大会を終えての所感

今後必須となる3社間のコミュニケーションへの第一歩

今回全員が参加できたわけではありませんが、まずは純粋に人が増えたということで、会社の規模が拡大したことを実感しました。3社それぞれ、仕事における得意分野は違いますが、今後は3社のメンバーが混ざりながら仕事をしていく場面も出てくるでしょう。また、協力業者さんたちに関しても、これからは3社の仕事をってもらう形になります。それぞれ違う文化のなかで、今後コミュニケーションを密に取っていくことの重要性を感じました。これからスムーズに仕事を進めていく意味でも、今回皆さんに一同に集まっていたことは、とても有意義なことだったと思います。また、私自身はお客様の安全大会に参加する機会が多くあるのですが、私以外のメンバーはまだあまり参加したことがないのが現状です。皆さんは日ごろから人前で話す機会がなかなかないと思いますが、このような会に参加することで、大勢の前で話す力もついてきます。今後は特に役職者を中心に、こうしたお客様の安全大会にもどんどん参加していただく予定です。私以外のメンバーも、積極的にいろいろなところで顔を売っていただき、新たなビジネスチャンスにつながれたらと思っています。

|| さくらグループの考える安全

安全な作業＝お客様からの信頼

安全に作業を行うことができれば、お客様としても安心感が得られます。そして、そのような安心感の積み重ねが信頼につながるでしょう。良いものをつくるという「品質面」はもちろん、「安全面」でもお客様からの信用をいただけるような団体になっていきたいと思っています。

|| 安全を守るための今後の展望

安全への意識向上も含めた、新評価制度の導入

安全に限らずですが、今後新たに評価制度をつくらうと考えています。なかなか点数がつけにくいものではありませんが、数値やコメントなどを参考にいただきながら、皆さんの安全についての意識も高めていく予定です。具体的な評価ポイントとしては、まずは安全の大前提である整理整頓。そして、現場で無口であるよりは、声をかけ合えるほうが安全にもつながると思うので、そのような現場でのコミュニケーション能力も評価する方向で考えていけたらと思っています。



安全大会での ヒヤリハット報告

安全唱和

- 一つ、良い製品造りは安全作業から
- 一つ、慌てるな ゆとりのなさが事故のもと
- 一つ、無災害は安全作業の心がけ
- 一つ、気を抜かず 初心に戻って再確認
- 一つ、安全は小さな努力の積み重ね
- 一つ、安全は常に心の余裕から



ちょっとした焦りや確認不足から遭遇してしまう、さまざまな「ヒヤリハット」。ここでは、安全大会で報告された2名の方のヒヤリハット事例を紹介し、皆さんの現場環境や業務姿勢を見直す機会とし、無事故無災害の実現に繋げていきましょう。

『ゼロ災でいこう ヨシ!』

発表したヒヤリハットの内容

建設現場の足場上で資材を肩に担いで運んでいたところ、足場と躯体の隙間に脚を落としてしまい、躯体から出ていたピーコンで右足の膝内側を裂傷。10針ほどを縫う怪我を負いました。

原因 近道行為をし、足元をよく見ていなかったこと。また、足場と躯体の隙間が広すぎたことが原因です。

対策 足場と躯体の隙間が広くなりすぎないように埋め、近道を通ろうとせず安全通路の再確認に取り組みます。

株式会社三和鋼産
さとう だいすけ
佐藤 大祐さん



ヒヤリハットを経験して変化したこと

現場の事前確認を徹底し、危険箇所を先に見つけ訂正してもらうこと。もしくはこちらで対策を考え、不備がないようにしています。



さくら株式会社
よしだ なるひと
吉田 成人さん

発表したヒヤリハットの内容

配管の取り付け作業中、2名が高所作業車上で配管とサポートの間にスリーパーを入れることに。しかし、障害物があり高所作業車を安全な場所に止められなかったため、他の作業員へフォローの声掛けをしたところ、急いだ作業員が足元にあった配管につまずきそうになりました。

原因 慌ててしまい、足元の確認をせずに不注意な状態で動いていたこと、現場の整理整頓不足が原因です。

対策 事故に繋がりがかねない散らばった資材の整理整頓、万が一に備えての足元の確認、そして不注意になりやすい急な行動を控えるよう心がけています。

ヒヤリハットを経験して変化したこと

仕事中、どれだけ忙しい状況であっても「急な行動は危険だ」という認識を忘れず作業に取り組むよう、私も含めた作業員全員が意識して行動しています。



この1年間を振り返って



冷熱部
みうら ゆうま
三浦 佑磨さん
YUMA MIURA

入社1年目が終わり、2年目に突入した方に自身の成長を伺うこの企画!今回は、三浦さんにお話を伺いました。どのような壁にぶつかり、どう乗り越えたのか。1年目を振り返り、当時の苦労や心構えについて語っていただきました。

前職の自衛隊業務との比較

大人数で動く自衛隊では業務が停滞することも

陸上自衛隊での作業は大人数で行うことが多く、演習場の草刈りなどは60人も隊員で行います。そのため、指示を受ける際、各隊員で受け取り方が異なりスムーズな動きが取れないこともあり。また、指示がうまく伝わらず「言った、言わない」などのトラブルで作業が停滞してしまうことも……。さくらでは少数精鋭が基本のため、コミュニケーションがしっかり取れています。私がかかっている現場は、基本的に4~5人で進めているため、意思伝達が速く、業務にも集中できています。

入社1年が経ち、成長できた点

積極的に聞きに行き、自分で気づいて動けるように

入社当初は、右も左もわからない状態だったため、何をすることも先輩や上司に聞かなければ作業ができませんでした。しかし、1年経つと少しずつ現場の流れがわかるようになり、自分で気づいて準備したり、率先して聞いて動いたりできるようになっていきました。仕事を覚えるために心がけたのは、忙しいからと怒られることを恐れず、一つひとつの作業に対して細かく話を聞くという姿勢。知識の土台がないと何事にも対応できないと気づき、自分が納得できるまで聞くと思ったのです。

さくらでの仕事のやりがい

自分が携わった工事が、目に見える形で残る喜び

自衛隊の業務では、何か目に見えるものを残すという作業がありません。訓練をした後は必ず以前の状態に戻さなければならないのです。掘った穴なども、すべて埋め直して更地に戻さなければなりません。さくらでの仕事は、自分が作ったものが実際に目に見える状態で残るため、とてもやりがいを感じます。現在は配管工事を担当しているため、冷蔵庫の配管でも、薬品関係の配管でも、自分が携わったものが稼働して役に立っているとすると、なおさら嬉しくなります。

FUTURE GOALS 今後の目標

私はこの仕事を始めてまだ1年経ったばかりですが、「自分が作業をした仕事はこれだ!」と言えることが何よりのやりがいです。自分のなかに知識や技術、さまざまな経験を蓄積するだけでなく、目に見える何かが残るこの仕事の喜びをかみしめ、さらなる成長を目指したいと思っています。

